



## 中国民俗界の「東方明珠」

### 華東師範大学中国民俗保護開発研究センターの紹介

毛 巧輝（華東師範大学民俗学専攻院生）

このたび神奈川大学COEプログラムの招きにより訪問研究員として来日した。短い期間ではあったが、日本における民俗学を多少なりとも理解することができたと思っている。今回の本コラムでは、私の所属する華東師範大学を紹介し、お互いの理解と交流を深めるきっかけになれば良いと考えている。

華東師範大学は中国最大の都市・上海市内にあると同時に、上海を中心とした呉越文化地域の中に位置する。もとは大夏大学と光華大学を母体とし、復旦大学と同済大学などから一部の学部や学科を取り入れ、1951年10月に大夏大学があった場所に建てられた。

1980年以降、中国教育部と上海市の共同で再建設され（主に『九五』<sup>2</sup>『十五』<sup>3</sup>『211工程』<sup>4</sup>などの国家計画による）、教育学科だけではなく、社会学科、人文学科、自然科学、管理科学科などの複数学部を持つ総合師範大学へと転身した。母体の一つであった大夏大学は、民俗学において1930年以降の伝統があり、民俗資料が豊富な地域に位置していたことから環境的にも優れていた。華東師範大学もこの伝統を受け継ぎ、1980年代から民俗学に力を入れてきた。そうして民俗学の研究と教育は国内外において重要な位置を占めるようになり、この何年間には新たな民俗学科の設立などを経て、民俗研究において著しい成果をあげている。

「華東師範大学中国民俗保護開発研究センター」は、2002年3月15日華東師範大学「華師2002年15号批文」により成立した独立機関である。センターにおける研究の趣旨は、国連教育文化組織の「伝統文化と民俗の保護」公約の要求に応じ、中国の民俗伝統と文化遺産の保護と開発のために貢献することである。

現在では、伝統文芸・古城・民家・結び紐・チャイナ服などの中国民俗が内に秘めた文化は、中国の経済発展と世界文化の波に乗り、世界文化遺産に登録されるなど、自国民と世界の人々に注目されつつある。一国の民俗文化はその国の経済成長と先進的文化建設に巨大な作用をもたらす、伝統と現代化の歩みよりを証明するものである。

しかしながら、我が国では今でも、人々の民俗に対する科学的な認識が不足しているため、高度経済成長の中で我が国の民族の特徴を表す民俗文物や民俗習慣などは不公平な待遇を受け、攻撃され、破壊されてきた。早急

に救出し保護しないと消滅してしまう危険があり、優れた中国民俗の開発と保護作業は一刻を争う状況に来てしまっていた。

こうしたことを背景に、当研究センターは中国民俗の開発と保護を目的として設立されたのである。中国においては早期に設立された学術研究機関で、民俗研究において優れた環境に恵まれている。理論と実践の結合を模索し発展させるために思考し続け、設立以来、積極的に中国文化遺産の調査と収集に力を入れている。寧波、山海関、重慶磁器口、福建省和平鎮などの地域の非物質文化の保護と収集をし、フィールドワークと比較分析の方法を用いて民俗研究を行なっている。そして中国四大伝説の一つである「梁山伯と祝英台」伝説についての保護と調査を行ない、全国的に影響を及ぼしている。

当研究センター長陳勤健教授は、1970年代末から浙江省の農村地域においてフィールドワークを始められ、20年余りの調査活動の中で、この地区の民衆伝統文化を深く研究されてきた。その豊富な研究成果により、中国で権威のある数々の賞を受賞されている。1988年からは日本（東京大学、筑波大学、神奈川大学、新潟大学、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター）、アメリカ（サンフランシスコ大学）、ロシア（モスクワ大学、ゴルカ世界文化研究所）、オーストリア（モルボン大学）などの諸外国の大学や政府機関と学術研究交流を行なうなど国際的に活躍されている。

こうしたことを背景にして、華東師範大学民俗学専攻は長く培われた伝統と新しい歴史環境の中で、さらなる発展を遂げているのである。

（毛 巧輝氏は2004年12月12日～25日、訪問研究員として来日された。）

1：「呉越」は周朝国名、呉は今の江蘇省南部と浙江省北部を、越は今の浙江省東を指す。

2：中華人民共和国国民経済、社会発展の為の第九回「五年」(1996～2000年)経済計画を指す。

3：中華人民共和国国民経済、社会発展の為の第十回「五年」(2001～2005年)経済計画を指す。

4：中国政府が21世紀において100の大学と学科を重点的に建設する大プロジェクト